

多様な学習コンテンツによる学生の学びの効果に関する調査

令和5年3月

大原裕介

1. 北海道医療大学看護福祉学部前期課程「福祉と当事者のリアル」におけるブレディッドラーニングの効果検証

①目的

・新型コロナウイルスのパンデミックにより、原則対面で実施されていた授業がオンラインやオンデマンドでの対応を選択せざるを得なかった。このことは、対面でなければ学習効果が得られにくい科目が明らかになった一方、オンラインやオンデマンドによる授業で自宅など集中できる環境で学習することができ学習効果が高まった内容もあることが分かった。

・また授業内容において、これまで遠方の講師を招くことが、時間や距離・費用などの制限があり特別講義等に限られていた。しかし、オンラインやオンデマンドによる授業では講師選択の幅を広げることができた。コロナ禍を経てニューノーマルとなるブレディッドラーニングによる授業形態について検討したい。

②内容

・今回の調査では、①幅広い講師陣による授業の生徒に与える影響、②オンライン、オンデマンド、対面による学習の効果を授業満足度などを含む講義毎の受講者向けアンケートにて実施。

③調査時期

以下の日程にて開講しアンケートを集計する。

令和5年度 北海道医療大学 看護福祉学部 福祉と当事者のリアル（案）

	日程	テーマ	コンテンツ	講師案
1	4月22日	オリエンテーション	オンライン	大原裕介
2	4/24-4/28	今を生きる子どものリアル	オンデマンド	湯浅誠 野澤和弘 大原裕介
3	5/8-5/12	普通の人になることをやめた	オンデマンド	広野ゆい 大原裕介
4	5月20日	2-3 振り返り	オンライン	大原裕介
5	5/22-5/26	記憶とつなぐ ～若年性認知症と向き合う私たちのこと～	オンデマンド	下坂厚 町永俊雄 大原裕介
6	5/29-6/2	世界が注目する当事者研究	オンデマンド	熊谷晋一郎 向谷地生良 大原裕介
7	6/5-6/9	3代目ギャン妻物語 ～ギャンブル依存症から自分の生き方を見つめる～	オンデマンド	田中紀子 大原裕介
8	6月17日	5-7 振り返り	オンライン	大原裕介
9	6/19-6/23	性被害・13歳で覚醒剤...「生き直し」	オンデマンド	竹田淳子 向谷地生良 大原裕介
10	6/26-6/30	パートナーの癌がわかった日	オンデマンド	鎌田守 大原裕介
11	7月8日	9-10 振り返り	オンライン	大原裕介
12	7月15日	まとめ	オンライン	大原裕介

2. 当別町における北海道医療大学の学生による地域ボランティア活動を通じたキャリアデザイン教育の効果検証

①目的

・共生型当別町地域福祉ターミナル（当別町のボランティア活動の拠点、2008年開所）を拠点とし、身近な地域住民が地域住民を支える仕組みとして、パーソナルアシスタントサービス、当別町地域生活サポーター、ファミリーサポートシステムの有償ボランティアが活躍している。その中でも担い手として、毎年30名以上の北海道医療大学在籍の学生が登録する。年間活動件数は1000件を超え、特に対人援助職を志望する学生の地域の学びの場となっている。

・多くの学生が地域の中で担い手として活躍する中で育ち卒業していく。地域に生きる人々を相手に専門職としてではなく一個人として出会うことで、人としてのありようを学び、自分とは違う背景を持った人々の暮らしを理解し、配慮することが出来ている。

・当該ボランティアは、ボランティアをコーディネートする担当者が、ボランティア活動そのものをコーディネートする役割、知識や経験に基づく知恵を伴走的に支援する役割、地域資源や地域に暮らす人々と学生をコーディネートする役割、などが重層的に伴って実施されている。このことは、各専門職が知識・技術を学ぶのと共に大切な「人間観」を養うことに寄与するとの仮説のもと、各ボランティアに活動している学生がそのボランティア活動の前後に生じる変化を追い、効果を検証していく。

②内容

・次の方に向けてアンケートとヒアリングを実施。

- 1) 今年度入学した1年生の内ボランティア活動を希望した方
- 2) 現在当該ボランティアとして稼働している北海道医療大学生
- 3) 過去各種ボランティアとして稼働していた北海道医療大学卒業生のうち、対人援助職についている方

③調査期間

令和5年4月1日～令和6年3月まで

④方法

・「当別町共生型ボランティア養成講座」を開講し、学生が講座の中で得た感想をアンケートで得る。

・北海道医療大学生に向けたボランティア活動支援のうち、専門職や学生同士による「対話型ケース検討会」の出席者から感想を得る。

・各種ボランティア活動後に、地域住民との交流場面や活動で得た感想を学生から得る。

・これまでボランティア活動をしていた卒業生も、対話型ケース検討会に参加していることから出席者から感想を得る。